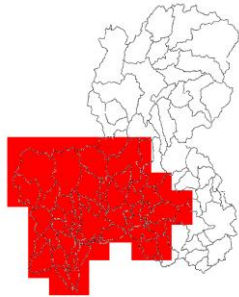


タキミシダ	<i>Antrophyum obovatum</i> Baker	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I B類)		シシラン科
選定理由	全国的に見ても少ないシダで岐阜県でも生育地、 個体数共に極めて少なく存続が危ぶまれる。	写真(加藤範夫)
形態の特徴	常緑性の小型のシダ植物。葉は叢生し県内で見られるものは数cm程度の株ばかりだが孢子囊群を着ける。中肋ははっきりせず葉脈は網目状になる。	
生態的特徴	空中湿度の高い陰湿な環境の岩上に着生する。	
分布状況	県南の中部、西部のごく限られた場所に見られる。	
減少要因	採取圧力及び伐採等による環境の激変によるものと思われる。	
保全対策	生育地の公開には注意を要する。登山道、遊歩道の整備の際には調査と配慮が必要である。	
特記事項	最近の分類ではイノモトソウ科として扱われている。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 128. 平凡社. 東京.	
		※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。

文責: 荻山恒弘